

太田川放水路
フォトで川くだり

西区内のまん中を流れ、13の橋が架かる太田川放水路。山手橋の下流には、14番目の橋が誕生する。ふだんは橋の上から、ぼーっと見ているだけで気づかなかったけれど、水辺に下りてみると、意外と静かなんだよ。また、季節ごとにいろんな水鳥たちがエサを求めて集まってくる。海のほうから少し風も感じるの、とても落ち着くよ。



太田川放水路の横顔をデジタルカメラで紹介しします。ホームページでは、写真をクリックすると画像が大きくなり、説明文が読めます。(西区 のんちゃん)



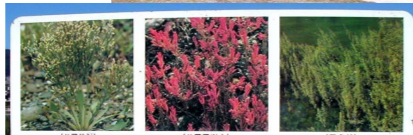
新庄橋付近

市街地の中をゆったりと右に左に川面が流れてゆきます。河川敷には、テニスコートなどがあります。

新庄橋

己斐橋付近

水の浄化に欠かせない水生植物が多く見られます。



太田川放水路の水生植物群落
本誌掲載の水生植物は、すべて、西区の放水路に生息する水生植物です。この水生植物は、放水路の水質浄化に大きく貢献しています。また、水生植物は、鳥獣の餌ともなります。

山手橋

己斐橋

旭橋

旭橋付近

干潟の生き物などを紹介するマップを見つけた。



新庚午橋

新庚午橋下流



河口近くになると、波返しが築かれていますが、所々に階段があって下りることができます。カキイカダや釣り人の姿も見られます。

おめでとう西区誕生20周年



今年の西区民まつりは11月5日(日)

いつもの広島サンプラザで



おもちゃランドは子どもたちが大好きなおもちゃでいっぱい!



広いホールでプラレールで遊ぼう



「ブロックとレゴは最高!」

プラレール、ブロック、レゴの寄贈を

部屋いっぱいにレールを思い思いの形につなぎ、モーターで動く電車や新幹線、貨物列車などを走らせるプラレールは、50歳前後のお父さんたちにとって懐かしいはず。顔と顔を寄せ合って一緒に遊んだ子どもたちも、もう立派な大人に。そんなプラレールや、黙々といい子をして遊んでいた子どもが「お父さん、お母さん、これはね!城、飛行機…」と自慢したレゴやブロックが押し入れに眠っていませんか?

子ども会では区民まつりの時、サンプラザのサブホールで行う“おもちゃランド”で使用するプラレール、レゴ、ブロックを集めています。寄付にご協力をお願いします。10月31日まで、西区役所2階の西区民まつり委員会事務局(〒733-8530 広島市西区福島町二丁目2-1 西区役所まちづくり推進課内)までご持参またはお送りください。

広いホールで子どもたちを思い切り自由に遊ばせてみませんか。



西へへの思いをよせて

大歳神社の火吹き花火

井口地区民芸保存会
会長 東 友一



私が住むまちに大歳神社(広島市西区井口二丁目)という神社があります。「大歳」という名の神社は全国いたる所にあり、私の隣のまちにも大歳神社があります。周りから都市化に迫られ、樹齢四百年を超える棕の大樹などの古木が欠けた櫛の歯のように小さな祠を囲んでいます。

そんな神社ですが、毎年10月の第3日曜日と前日の土曜日に行われる秋祭りが近づき、子ども神楽の練習や祭りの準備が始まりだすと、まちが活気と緊張感にあふれてきます。今年は10月14日と15日に行われます。

神楽を演じる舞台の脇に取り付けられた竹の大筒から打ち上げられる花火は、江戸時代から続いている祭りの最大の呼び物です。

長さ1~1.5メートルの竹筒から火柱が轟音を響かせながら、神社の大木の間を突き、15メートルぐらいの高さまで火の粉を吹き上げます。筒から燃え盛る炎、吹き上がる火の粉の勢いとその迫りに皆が感動を覚えます。

花火を打ち上げる者は、事故がないように数日前から身を清めて当日を待ちます。これまでの伝統の名誉を背負い、一心にキビキビする動きは、見ていて本当に気持ちのよいものです。打ち上げた筒を退け、新しい筒をしっかりと固定して、点火するなど、写真のように神楽の最中やその合間を縫って、約40発打ち上げます。

私が神社の総代になる10余年前までは、

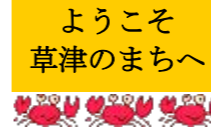
井口の大歳神社へは、広島電鉄宮島線井口電停下車、北へ徒歩約10分
ホームページでは、地図を見ることができます。



燃え盛る花火のなか演じられる神楽

花火の製造を担当する数軒が農家の納屋に集まって、花火を製造していました。各家に伝わる独特の火薬の調合あり、花火を見ただけでこの家が作った花火か、皆で語り合ったものです。

時代の流れの中で、花火の家内製造が禁止され、昔ながらの伝統ある祭りを守るためには、わざわざ火薬工場まで行って、作らなければならなくなりましたが、祭りをとおして新旧住民の心が一つになり、まちへの愛着が強まり、ふるさとが育まれていきます。私たちの先輩たちがそうしたように伝統行事を代々伝えていくことは、これから続く人々への私たちの務めだと思っております。



マップを見ながら 神社・仏閣などをてくてく

8月25日から27日まで、草津のまちを愛する会と昔なつかし写真倶楽部が主催する“草津のまち まるごとオープンミュージアム”が開催されました。26日には、造酒屋でコンサートもあると聞いて、暑さを我慢して早速、己斐駅からチンチン電車に乗って行ってみました。(安佐南T. T)



江戸時代(天保年間1830年代)より続いた小泉酒造本店で開催された今年で3回目のコンサート。今回は、広島交響楽団員による金管五重奏が演奏された。会場は開演前には、もう満員に。



宗高山 西楽寺(そうこうざん さいらくじ)の天井画。本堂に上がって、大の字になって。

大釣井は、いつごろ掘られたか分からないが、漁民や町民の飲料水や用水になっていたのではないかと思います。(てくてくマップから)



草津小学校の児童が描いたわが町。子どもたちの思いのこもった絵がまちの随所に。



大釣井の地蔵さんは、火災をなくするために祀られたといわれている。地蔵さんをお祭りしてから草津に火災がなくなったとか。(てくてくマップから)